

対象	小学校中学年以上
教科	総合
該当 単元	岐阜 「長良川の漁法」
教科書	
掲載日	2014.6.17. 朝刊 岐阜県版

問 1 : 長良川で行われている漁法
で、生き物が使われる漁法
に○をつけましょう。

友づり

けぼりづり

がり

鵜飼(うかい)

夜網漁(よあみりょう)



かがり火で川面を照らしながら網を引き上げる漁師ら。美濃市前野の長良川で

かがり火 暗い川面にゆらり

美濃市前野の美濃橋近くの長良川で十五日夜、かがり火と舟べりをたたき音で川魚を追い込む伝統漁「夜網漁」が始まり、地元の漁師三人が漁に出た。午後八時すぎ、漁師は一隻の舟に乗り込んで出漁。暗い川面をかがり火で照らしながら、舟べりを櫓で「トントン」とたたき、川幅いっぱいには張った網に川魚を追い込んだ。

美濃・長良川で夜網漁

一隻あたり二百〜三百匹ほどの川魚がかかり、漁師らが慣れた手つきで網から一匹ずつ外していった。引き上げた網には、体長二〇センチほどの大きなアユも多数かかっていた。

漁師たちは「例年通りの量」「夏に向けてもっとアユが大きく成長してほしい」などと感想を語り合っていた。漁は十月末まで続ける。(成田嵩憲)

問 2 : 記事の中に出てきた

「夜網漁」と、「鵜飼」の共通点を二つ、見つけましょう。

① () に、漁をする

② () で照らす

問 3 : 漁師さんが、船べりを櫓(ろ)で「トントン」と、たたくのはなぜでしょう。

()

発展 : 夜網漁で、アユなどの川魚をとるのは漁師さんですが、鵜飼で鵜(う)をあやつってアユをとる人のことを、なんとよぶでしょう。

()